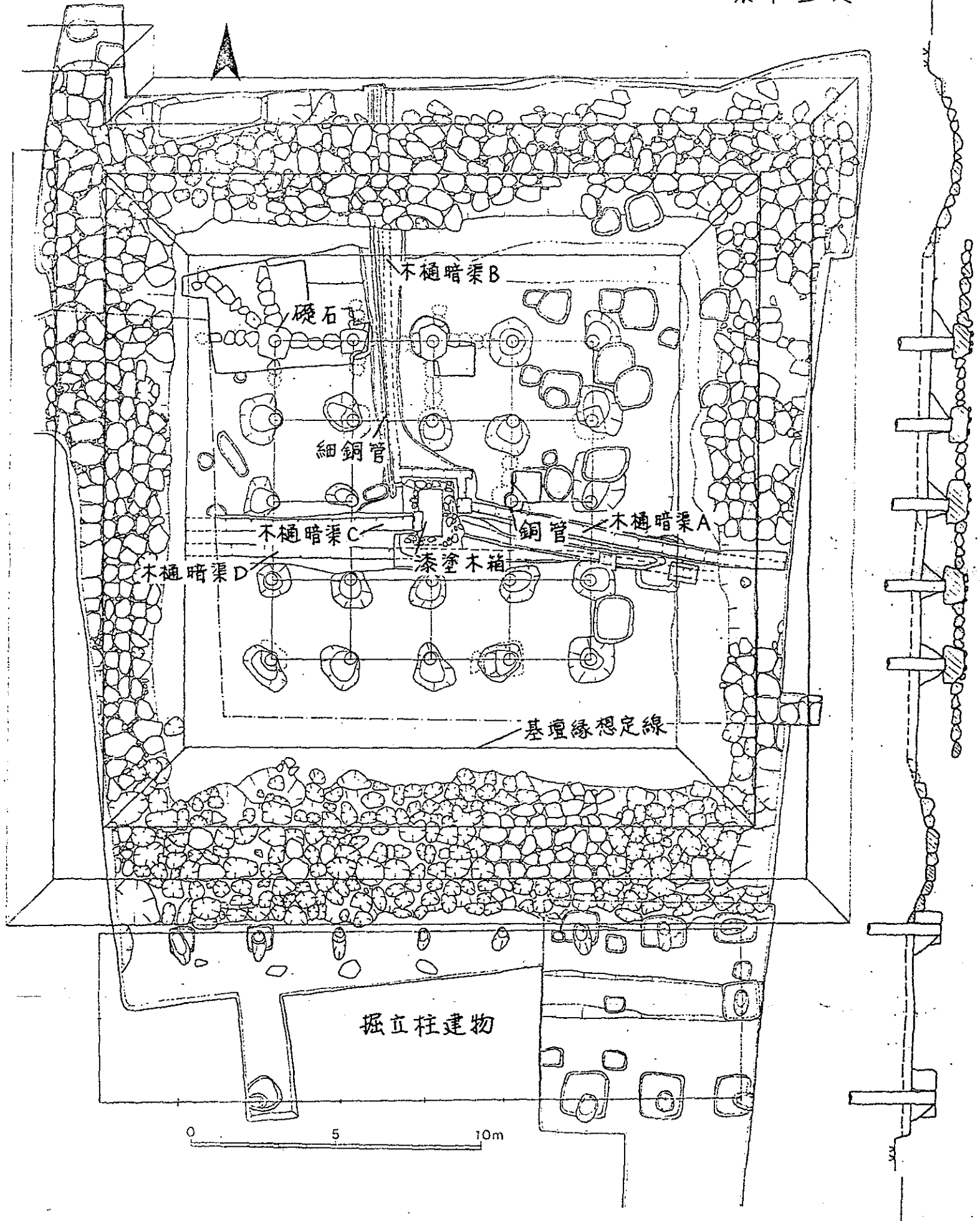


1982年 2月 20日

奈良國立文化財研究所飛鳥藤原宮跡發掘調查部

木下正史



飛鳥水落遺跡遺構圖

No. 1

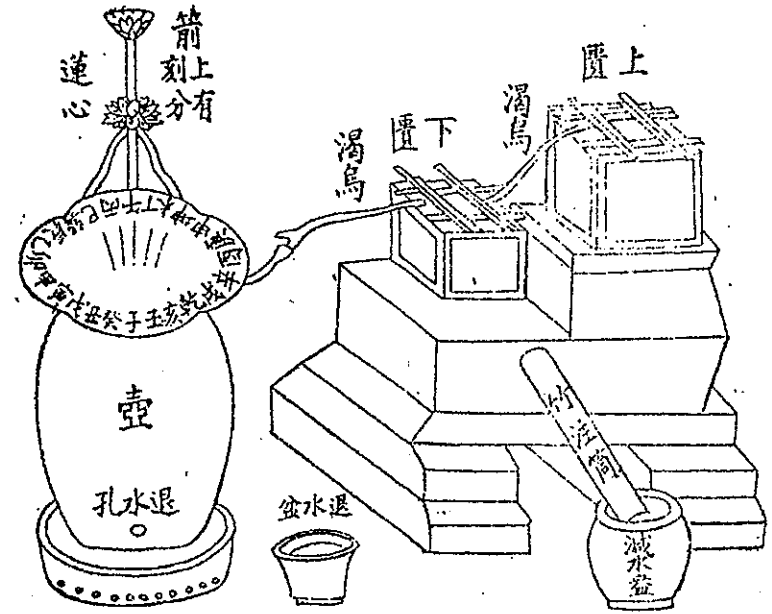
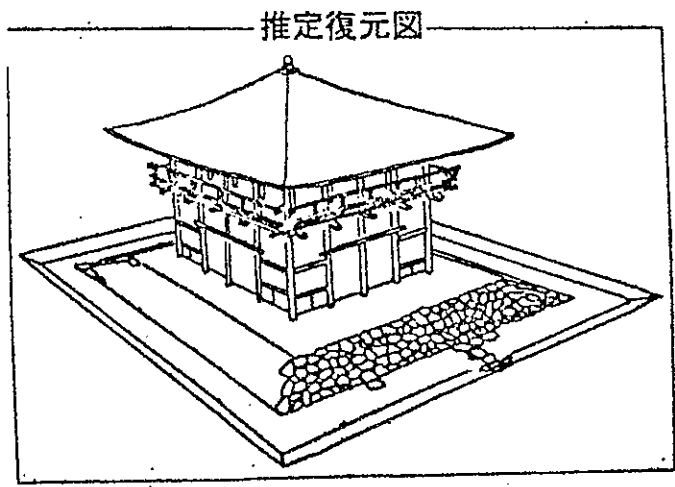
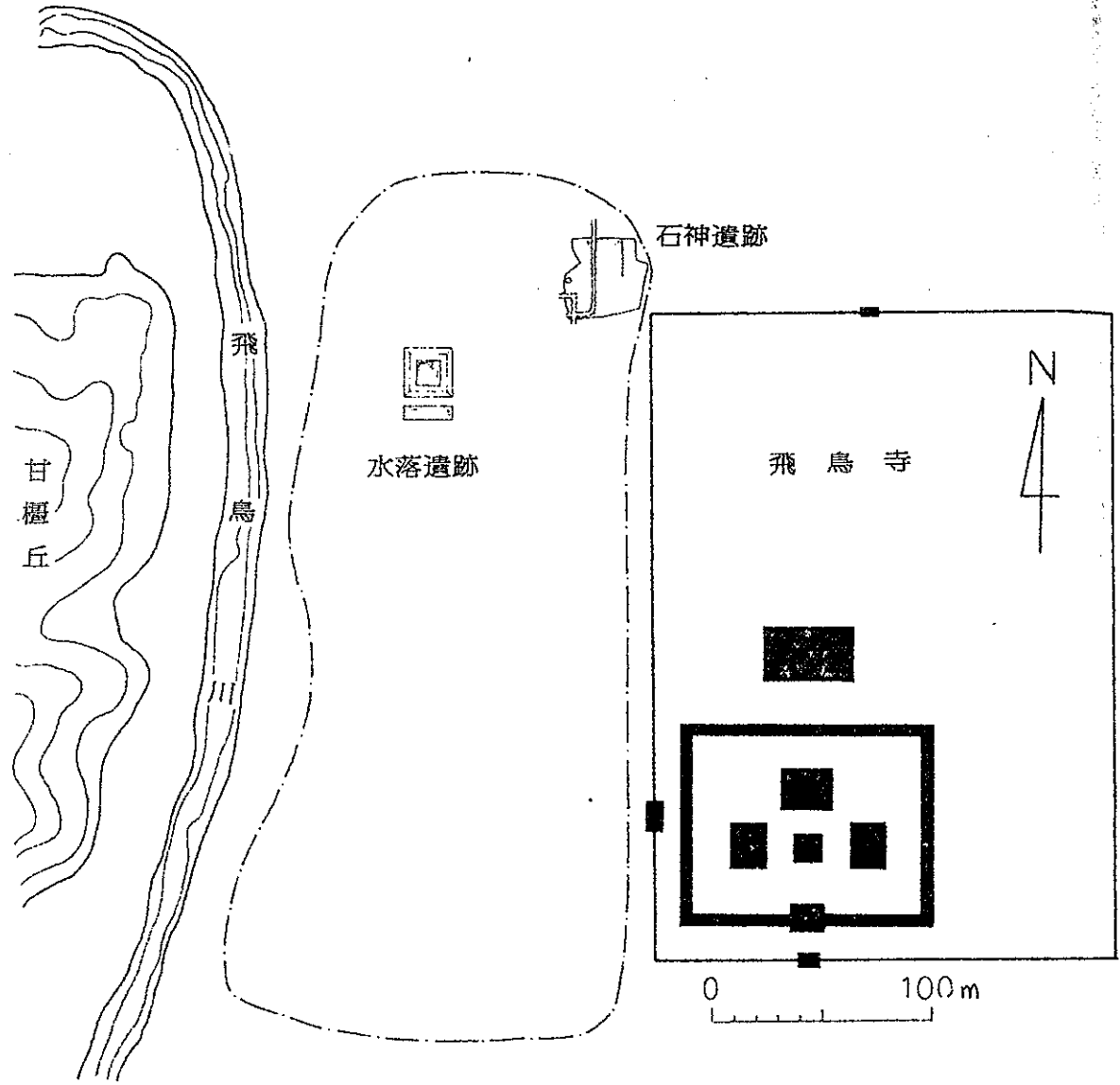


图 9-19 宋燕肃漏刻图，采自《古今图书集成·历法典·第九十九卷》。图中竹注筒位置有误，上端应上接下甌，此图却绘于底座边上了。

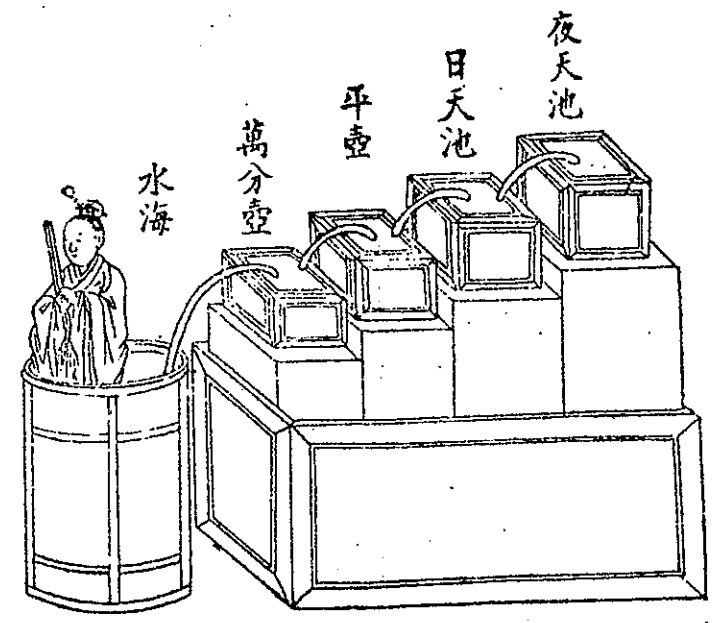
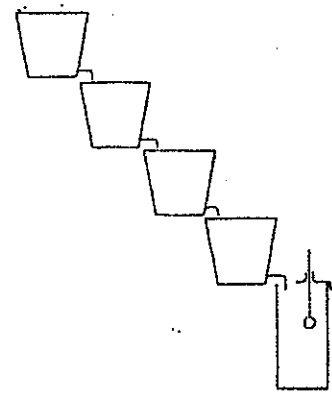


图 9-17 唐吕才漏刻图 采自《古今图书集成》，原图系宋《六经图》所载。

(1)「日本書紀」皇極三年(六四四)正月

(中臣鎌子連) 中大兄の法興寺の槻の樹の下に打毬する侶に預りて、皮鞋の趨の随脱け落つるを候りて、掌中に取り置ちて、前みて跳きて恭みて奉る。中大兄、對ひ跳きて敬びて執りたまふ。茲より、相ひ善みして、俱に懷ふ所を述ぶ。

(2)「日本書紀」大化元年(六四五)六月十九日

天皇・皇祖母尊・皇太子、大槻の樹の下に、群臣を召し集めて、盟曰はしめたまふ。

(3)「日本書紀」斉明三年(六五七)七月十五日

須彌山の像を飛鳥寺の西に作る。且、孟蘭盆會設く。暮に觀音蓮人に變たまふ。

(4)「日本書紀」斉明五年(六五九)三月一七日

甘藷丘の東の川上に、須彌山を造りて、陸奥と越との蝦夷に變たまふ。

(5)「日本書紀」斉明六年(六六〇)五月

又、皇太子、初めて漏刻を造る。民をして時を知らしむ。又、阿倍引田臣、名を闕せり。災五十餘載る。又、石上池の邊に、須彌山を作る。高さ剛塔の如し。以て漏刻四十七人に變たまふ。

(6)「日本書紀」天智一〇年(六七二)四月二五日

漏刻を新しき器に置く。始めて候時を打つ。鐘鼓を動す。始めて漏刻を用ゐる。此の漏刻は、天皇の、皇太子に爲す時に、始めて親ら製造れる所なりと、云云。

(7)「日本書紀」天武六年(六七七)二月

是の月に、多羅船人等に飛鳥寺の西の槻の下に變たまふ。

(8)「日本書紀」天武一〇年(六八二)九月一四日

多羅船の人等に飛鳥寺の西の河邊に變たまふ。種種の樂を奏す。

(9)「日本書紀」持統二年(六八八)二月二日

蝦夷の男女二百一十三人に飛鳥寺の西の槻の下に變たまふ。仍りて冠位を授けて、物賜ふこと各差有り。華人の相撲とるを西の槻の下に觀る。

(10)「日本書紀」持統九年(六九五)五月二日

(11)「令義解」職員令陰陽寮

漏尅博士二人。掌率守辰丁。伺。漏尅之節。守辰丁廿人。掌伺漏尅之節。以時擊鐘鼓。使部廿人。直丁二人。

(12)「延喜式」陰陽寮

凡漏刻鐘料松木一枝。本周三尺。長一丈六尺。隨損令左右衛門府採送。其綱料熟麻卅斤。隨損申省請大藏省。

(13)「延喜式」陰陽寮

凡漏刻燈油。隨月大小請受所司。從三月至八月夜別四合。年料所請卅三丈六尺。試漏刻器巾繩。曝布各三尺。六尺。並水磨料。調布三丈六尺。燈心料。月油。油坏二口。盤二口。麻笥一口。朽四柄。炭十二石。月。月廿日勘録申省。

(14)「延喜式」大藏省

凡懸陰陽寮漏刻器料舊帳二條。隨破損即充行。

(15)「延喜式」陰陽寮

諸時整鼓。子午各九下。丑未八下。寅申七下。卯酉六下。辰戌五下。巳亥四下。並平聲。鐘依刻鼓。

(16)「統日本紀」寶龜五年(七七四)二月一〇日

陸奥、國言、大宰、陸奥、同聲、不虞、飛驒之奏。當記時尅而大宰既有漏尅。此國獨無其器者。遣使置之。

(17)「延喜式」民部上

凡大宰及陸奥國漏刻守辰丁各六人。課役俱免。每年相替。